

1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る

第22回(11/13) 渡部成哉先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

Book1

消された後継者

著者: 典厩 五郎 出版社: 世界文化社

コメント: 「築山殿始末」- 徳川家康の夫人である築山殿と、長男の三郎信康が命を落とすことになった事件。それにまつわる“通説”を、著者はことごとく粉砕してみせた。知的スリルあふれる書ながら絶版。

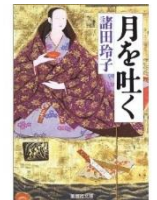


Book2

月を吐く

著者: 諸田 玲子 出版社: 集英社

コメント: 物語の結末には女性らしい甘さを感じるが、“通説”・“俗説”に惑わされることなく、資料を消化し、それを自分のものとして使い切り、展開しているのは立派。

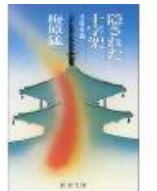


Book3

隠された十字架—法隆寺論—

著者: 梅原 猛 出版社: 新潮社

コメント: 法隆寺は聖徳太子一族の怨霊を封じ込めた寺、との説を打ち出した。内容の当否はともかく、若年の私に「もののみかた」のひとつを教えてくれた本。



Book4

塔

著者: 梅原 猛 出版社: 集英社

コメント: のちに著者自身によって否定・修正される説も含め、「よく知っていると思う偏見が(略)正確な認識をさまたげている」との指摘は、日本および日本人への問いかけとして、今日も有効である。



Book5

三郎信康—オペラができるまで

著者: 渡部 成哉 出版社: 自費出版

コメント: オペラ上演(1999年初演・2001年再演)のための台本と、関連の文章を収める。上演台本は、梓組みだけ“通説”に従いながら、“通説”に疑問を呈する視点で書いた。

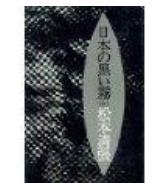


Book6

日本の黒い霧

著者: 松本 清張 出版社: 文春文庫

コメント: 第二次大戦後の、米国占領下の日本で起こった事件の数々について、著者独自の推理を展開したもの。同じ著者による『昭和史発掘』全13巻のシリーズとともに、疑うこと(懷疑)と、それを検証すること(批判)の大切さを教えられた本である。



Book7

歌舞伎 研究と批評 第48号

著者: 渡部 成哉 他 出版社: 雄山閣

コメント: 平成23年1月から6月までの半年間に公演された歌舞伎の舞台批評。オペラ『三郎信康』の初稿は映画シナリオのスタイルでつくり、二稿目からは、慣れ親しんだ歌舞伎の舞台を念頭に書き改めた。

